

⑥ 第6委員会

「安全で安心してくらすことができるまちづくり」



それでは、第6委員会の意見を発表します。

第6委員会のテーマは、「安全で安心してくらすことができるまちづくり」です。

このテーマについて考えるため、私たちは、8月18日に消防航空隊の施設見学を行いました。そこで、私たちは、消防航空隊を見学しました。空での活動をしてくれる消防航空隊、サポートしてくれる警察、陸での活動をしてくれる消防署が協力して、けがをしている人のことを一番に考え、行動してくれていることがわかりました。ヘリコプターを実際に見たり、中に乗ったりして、カメラで録画をしたり、人をつり上げて救助したり、スピーカーで呼びかける装置を見学しました。ヘリコプターの災害活動におけるすごい能力に驚きました。この能力をしっかりと維持・活用することが大切だと考えました。

しかし、名古屋市内で起こった火災の件数は年間661件ととても多いということでした。消防隊のありがたさを改めて感じました。市民一人一人が努力して、予防することが大切だと思いました。

その後、私たちは施設見学をしてわかったことや思ったこと、感じたことをもとに、名古屋を「安全で安心してくらすことができるまちづくり」にするためには何をすればいいか考えました。

それでは、私たちが考えたことを順番に発表します。

○子ども議員

昨年度の名古屋の火災^{かさい}では、1年に661件も起きています。火災^{かさい}は、命や財産^{ざいさん}を失うこともあるとても怖い^{こわ}ものです。消防隊^{しょうぼう}によって火を消すことはできますが、彼らの命^{かれ}がけの仕事でも火災^{かさい}をなくすことはできません。起こさないことが大事なのです。火事はほとんどの場合、防ぐ^{ふせ}ことができます。外出や寝る前に火のもとをもう一度確認^{かくにん}する。発火^{げんいん}の原因になるものの扱い^{あつか}には気をつける。たったこれだけでも、みんながやれば被害^{ひがい}は減ります。

名古屋を「安全で安心してくらすことができるまち」にするには、一人一人の知識^{ちしき}と心がけが大切です。

○子ども議員

僕は、消防航空隊^{しょうぼう}を見学していろいろなことを知りました。

例えば人をつり上げることができるホイス装置^{そうち}や、一度にたくさん^{じょうほうしゅうしゅう}の火を消せる消火バケツ、情報収集^{じょうほうしゅうしゅう}をするカメラがついているヘリコプターです。いつか起きると言われている南海トラフ地震^{じしん}が起こったときに、このようなヘリコプターを持つ消防航空隊^{しょうぼう}は、陸路^たが断たれたときに、空からの救助や消火をしてくれるので、減災^{げんさい}にとっても役立つと思います。

けれども、一人一人が防災^{ぼうさい}に対する知識^{ちしき}を持ち、二次災害^{さいがい}を起こさないようにすることで、より安全で安心^くに暮らせると思います。

○子ども議員

最近、地球温暖化の影響からか、台風やゲリラ豪雨などで被害がふえたと感じています。僕は消防航空隊の施設見学をして、ヘリコプターの能力に感動しました。特にホイス装置が印象に残り、人をつり上げて救助したり、空から火災の消火ができたところがすばらしいと思います。

そこで、より名古屋を安全で安心なまちにするために、三つの案を考えました。一つ目は、津波の被害は南区、緑区、港区に多いと思うので、より早く救助ができるように、近くに施設をつくること。二つ目は、2機のヘリでは救助が行き届かないと思うので、もっとヘリを多くふやしたほうがいいということ。三つ目は、東日本大震災の津波を防げるような堤防をつくることです。そうしていつ来るかわからない被害を防ぎたいです。

○子ども議員

僕は、消防航空隊のヘリコプターを見学しに行ってきました。すると、人を救助しに行ったとき、病人を担架に乗せられる広いスペースがありました。大地震のときには、スピーカーから地上への避難を呼びかけれる設備があり、感心しました。

皆さんは火災予防を知っていますか。査察、広報を通じて火災を予防することです。ですが、去年起きた火災件数は661件起きていました。この火災予防をしていても、こんなにたくさんの件数があるのに驚きました。これからは、一人一人が気をつけていかなければならないなと思いました。

○子ども議員

私は、ニューヨークでの9.11事件や東日本大震災での消防隊の人たちが命をかけて働いていたことを強く覚えていたので、消防航空隊を見学しました。

名古屋では、大きな災害が起きていないので、ゆったりと仕事をしているのかと考えていました。

しかし、名古屋でも大変多くの災害が起きていることを知り、とてもびっくりしました。消防航空隊の人たちも毎日命をかけて働いているのかと思うと、尊敬の気持ちでいっぱいになりました。いろいろな人が支え合っていてできている世の中をもっと知りたいと思いました。

○子ども議員

「安全で安心してくらすことができるまちづくり」にするには、まず火災予防をすることが大切だと思います。例えば、火遊びをしないやガスコンロを忘れずに消すなどがあります。それから、突然の災害に備え、正しい救助知識を身につけることも重要です。

最後に、空での活動をしてくれる消防航空隊、道路で交通整理をしてくれる警察、陸での活動をしてくれる消防局の皆さんと僕たちが協力し合って、けが人のことを一番に考えて行動すればいいと思います。

○子ども議員

消防航空隊で私が学んだことは、名古屋市内で起こる災害件数がとても多いということです。災害が起きたときにすぐに消防隊が助けに来てくれます。すごくありがたいなと思いました。

特に、火災が起きる前の予防が大事だと改めて知りました。一人一人が災害が起きる前に、災害予防を考えれば危険なことにはならないと、大切なことを学びました。火災では、火の後始末を気をつけることや、消火器、火災警報器の設置などの予防をするのを常に意識することが、私たちが今できることだと思います。また、災害を起こさない第一歩だと思いました。

○子ども議員

私は、名古屋を災害が起きても、すぐに救助に駆けつけて多くの人を助けられるまちにしたいです。そのためには、災害が起きた場所を早く見つけなくてははいけません。ヘリコプターは空から救助活動を行うことができるので便利です。しかし、今のヘリコプターは飛び上がるのに時間がかかります。

また、一度にたくさんの人を乗せられないので、何度も往復しないといけません。だから、私は離陸までの時間がより短く、一度に多くの人を乗せられるヘリコプターを開発してつくるといいと思います。

○子ども議員

「安全で安心してくらすことのできるまちづくり」のために、消防航空隊の皆さんや救急車、指令センターで働いている職員の皆さんの努力はすごいと思います。しかし、そのほかにも市民一人一人の努力が必要です。航空隊の方の話によると、2014年の火災は661件、救助活動をしたのは1053件、救急は11万7695件です。こうして見ると、火災は1日約2件、救助は1日約3件、救急は1日約400件起きているということになります。私は、これでは余りに多過ぎると思いました。突然の病気による救急や救助は仕方がないとしても、火災や救助は予防すれば減らすことができます。

私たち市民にできることは何があるでしょうか。例えば火災は呼びかけをしたり、市民たちが気をつければ、少しは減ることもあるでしょう。そして、もう一つ、当たり前のことかもしれませんが、信号をきちんと守る、車のスピードを出し過ぎないなど、皆さんが交通ルールを守れば事故が減り、救助隊の出動も減ると思います。今挙げた例だけではなく、ほかにもたくさんのもしものことの予防ができます。これらのことを少しではなく、私たち子どもも含めて多くの市民が気をつけることで、今よりもっと「安全で安心してくらすことのできるまちづくり」をすることができると思います。

○子ども議員

消防航空隊の施設を見学して僕が感じたのは、これから子どもの数が減ってきたときに、この隊員、設備を名古屋市だけで維持できるのか、維持する必要があるのかということです。国や県ともしっかり協力して自衛隊などのヘリコプターを活用できるようにしたいと思います。また、僕が以前に住んでいたまちと比べると、防災放送が十分に活用されていないと感じるので、もっといろいろな情報を流してはどうでしょうか。地域のつながりを維持していくためには、町内会をこれからどうするのかも課題です。

○子ども議員

私は、消防航空隊を見学し、「安全で安心してくらすことができるまちづくり」にするには、一人一人の予防が大切だと思いました。たとえ火災予防をしていますが、年間で起きている火災件数は661件と、毎日約2件は起きていることがわかりました。なので、うちは大丈夫と安心するのではなく、日々自分たちにできることを考え行動する、それが「安全で安心してくらすことができるまちづくり」への第一歩だと思います。

○子ども議員

いろいろな大人の方がたばこを吸っている人たちがいますが、たばこを吸った後に道路や歩行者が通る道に捨てると火事になるもとだから、少しでもそういう行動がなくなれば、平和で火事がなくなると思います。

わたし
私たちが第6委員会は、このようなことが名古屋を「安全で安心してくらすことができるまち」にするために必要だと考えました。
これで、第6委員会の発表を終わります。

■ ^{ふくた と し しょうぼう}福田都市消防 ^{とうべん}委員長の答弁

第6委員会の皆さん、本当に素晴らしい発表をしていただきまして、ありがとうございました。

第6委員会では、^{わたし}私たちが住んでいる名古屋市を「安全で安心してくらすことができるまち」にするためにはどうすればいいのかというテーマで、子ども委員長さん、そして子ども副委員長さんを初めとした12名の委員の^{みな}皆さんにたくさん考えをいただきました。

活^ぎ発^{はつ}な議論^{ぎろん}を行っていただきました。本当にありがとうございます。

施設^{しせつ}見学をした消防^{しょうぼう}航空隊では、模擬^{もぎ}出動として実際に^{じっさい}隊員さんたちがヘリコプターに乗り込んで飛び立つ様子や、救助などに使われる^{そうち}ホイスト装置などの見学を行い、またヘリコプターの^{そうじゅうせき}操縦席に座^{すわ}ったり、先ほど申しましたホイスト^{そうち}装置を使ってつり上げてもらうなどの体験も行ったことで、そこで働く隊員さんがふだんからどのようにして^{みな}皆さんの安全を守っているのかということを学ぶよいきっかけになったと思います。また、会議室などでの意見発表に向けた話し合いでは、初めは^{みな}皆さん初対面ということもあり、発表や話し合いも少しおとなしいなという印象でしたが、話し合いが進むにつれて、積極的に意見を言うことができるようになっており、^{みな}皆さんの成長を感じることができました。そうした成長があったからこ



そ、今のようすばらしい意見発表につながったのではないかと感じております。

また、昨年名古屋市では、救助・救急の対応を必要とする災害が約12万件発生しており、1日に直しますと300件を超える件数となりますが、今皆さんの発表の中で提案していただきました消防活動や救急活動が、より円滑に進むようにするための提案や、一人一人の防災意識を高めるための提案、そして災害を未然に防ぐための提案は非常に重要なものだと思います。

ふだん私たち大人が見過ごしてしまうような事柄を、今回あなたたち子ども議員の目線で発見し、また感動した素直な意見を聞くことができ、大変勉強になりました。3日間という短い時間の中、自分なりに考えてこのようなすばらしい案を出していただいたことは、本当に驚きました。非常にうれしく思います。

きょう皆さんから発表していただきました意見や提案などをしっかり受けとめまして、また今後につなげていくため、私たち大人の議員も最大限努力します。名古屋市が、安全で安心なまちとなるように取り組ませていただきたいと思います。

今回西川副委員長、また鈴木副委員長、そして河合先生には、いろいろなアドバイスをいただき、大変にありがとうございました。

以上をもちまして、私の答弁を終わらせていただきます。すばらしい意見発表、大変にありがとうございました。

